

第46回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和3年4月5日（月） 18:00～19:30

2 形態 web会議

3 出席者 53名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○令和3年度から、国が小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業（概要）を実施することになったと報告があった。県としてもこの事業を活用し令和3年度予算を計上しているところである。対象となる治療は5種類あり、助成回数は1患者あたり2回までで、1回ごとの助成上限額が決められている。本事業は妊孕性温存療法を実施する医療機関とがん治療を実施する医療機関との連携が不可欠であるため、本協議会のご協力を賜りたい。3月下旬に国から事業実施に係る要綱が示されたところであり、現在、県でも実施要項を作成中であり、決定次第事務局を通して発表する。

・妊孕性の対象はAYA世代のみならずもう少し年齢が高い患者が含まれるが、本事業の対象者に年齢制限はないという解釈で良いかと質問があった。

→岡山県：本事業は、治療実施時の年齢が43歳未満の者を対象としている。

→事業としては年齢制限があるが、妊孕性の患者サポートについては年齢制限を設けない方が良いと思うという意見があった。

(2) 事務局・岡山大学病院

○令和2年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、令和3年度の予定も情報提供いただきたいとの依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計（R2年度）について報告があった。

・閲覧数については、例年同様「セミナー・講習会（医療関係）」が最も多く、「がん拠点病院とは」「患者会・がんサロン」と続く。「セミナー・講習会（一般向け）」が大幅に増加した月もあるため、こちらもぜひ情報提供いただきたい。

・訪問者については、前回報告同様、9割以上が初回であり、地域別でも岡山県内の方が約8割を占めている。

(3) 作業部会 等

① 地域連携パス部会

○令和2年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績（R2.11～R3.2集計分）について報告があった。

・岡山県統一版の5大がんの地域連携パス診療手帳について、乳がんは3年前に更新したものの、それ以外は更新しておらず情報が古くなってきている。予算が付き次第、ニーズの高いものから順次更新していきたいと考えているので調査等にご協力をお願いしたい。

・COVID-19下で病院を受診しづらくなってきた時、地域連携パスはより有効に活用できるようなポテンシャルを持っているのか、それともパスの運用は難しくなるのかと質問があった。

→実績表からはその点については読み解けないが、ある特定の病院でクラスターが発生した時などは急に他院にお願いしなければならない場合がある。普段から地域にお願いできる体制作りをしておくことが重要ではないかと考える。

② がん相談支援部会

- 1月25日に web 開催された第44回がん相談支援実務者会議について報告があった。
 - ・広報活動において、例年参加していたイベントが中止になるなどコロナ禍での活動に難儀をかかえている。図書館との連携展示についても拡大を考えていたが、結果的に前年度に開催した3施設しか行えなかった。今年度はその3施設に瀬戸内市民図書館と奈義町立図書館を候補に、拡大していく計画を立てている。
 - ・研修について、地域相談支援フォーラム（8/22）とがん相談員研修会（12/16）をオンラインで開催した。今年度は、例年通りがん相談員研修会の年3回実施を目指している。
 - ・グループワークは、4グループに分かれて「PDCA 進捗状況報告および来年度に向けての意見交換」をテーマにさまざまな分野について意見交換を行った。どの施設もかなりコロナウイルスの影響を受けており、当初の計画を練り直さなければならない状況になっている。他施設の意見も参考にし、各施設で今年度の計画を修正することとなった。

- ・オンラインで開催したがんカフェについて情報共有があった。

→先月、当院で Zoom を利用してがんカフェを行った。当院で開催したがんサロンやがんメディカルカフェに参加されたことがあり、次回のご案内を希望された方のみにも広報したが、計画立案が遅く申込み期間が短かったこと等で当院に通院中の2名の参加しかなかった。間の取り方が難しい等の問題はあったが、参加した2名からは「良かった」との感想をいただいている。主催者側も手探り状態でまだ大きく広報はできないが、今後もこの方法での開催を検討したい。

→なかなか集まらない状況の中で、このような形式でカフェの開催についてどうなのか患者会の皆様のご意見を伺いたい。

→オンラインのがんカフェにピアサポーターとして参加してみたが、参加者がオンラインに慣れておらず、メンバーの様子が見えないから話すタイミングがわからないというさぐりさぐりの状態であった。ただ、現在のコロナ禍で皆さん相談しにくい状況なので、このような相談できる場所をオンラインでも開催していただけるのはありがたい。

③ 緩和ケア部会

- 3月1日に web 開催された第26回緩和ケア実務者会議、及び令和3年度緩和ケア研修会開催予定（案）について報告があった。

- ・厚生労働省から、新型コロナウイルス感染症の流行下におけるがん診療連携拠点病院等の指定要件の留意事項について連絡が来ている。指定要件で、「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づいた緩和ケア研修会の開催が求められており、web 等での開催で指定要件を充足したとみなす一方で、受講者に修了証書は発行できない。つまり、指定要件を満たすことはできても受講者にはメリットはないということである。

- ・「令和3年度の現況報告においての該当期間は令和2年1月から令和3年12月まで」となっているため、この期間に1度緩和ケア研修会を開催しておけば良いのかという出席者からの質問に対し、岡山県からはその通りであると回答があった。尚、ロールプレイングを含めたすべてをオンライン化できないかという意見も出ているが、今のところ認められていない。

- ・令和3年度の開催予定（案）では、開催未定の施設もあるし、開催しても院内医師に限ると受講制限をかけている施設もある。コロナの状況次第である。

- ・コロナ禍における緩和ケア病棟への転院について、昨年春ごろ京都府が取り決めたようなルール作りが岡山県でも必要か否かが議論された。緩和ケア病棟だけに適用するルールを作るのは難しく、病院全体のルールに従った上で、現時点では特にルールを作らず様子を見ようという結論に至った。

- ・昨年度岡山県医師会から委託を受けていた緩和ケア研修会(12/20)について、コロナの影響で急遽中止したと報告があった。拠点病院以外の病院に勤務する医師（研修医）からの申込みがあり、ぜひ開催したかったがコロナウイルスの流行でやむを得ないと判断した。今年度も同時期に予定しており、コロナの収束状況にもよるが、開催して拠点病院以外の医師もしっかりとカバーしていきたいと考えている。

④ がん看護部会

- 3月26日に web 開催された第56回がん看護部会について報告があった。昨年度の活動報告を各施設に報告してもらったところ、院内でも研修をするのが難しかったという意見が多かった。今年

度は、web を使った研修会を開催したり、施設間で研修の場を共有したりできないかと検討している。

⑤ 研修教育部会

○3月24日にweb開催されたオンライン研修「新型コロナウイルス感染症ががん診療ならびに連携に及ぼす影響についての意見交換会」について報告があった。当日の参加者は30名程度であったが、熱心に議論していただけた。また、岡山県の全面協力で実施した事前アンケートは365施設（県内の病院・診療所・在宅サービス事業所）から回答が得られた。

・診療面・診断面（内視鏡検査、手術、抗がん剤治療等）ではコロナの影響をあまり受けていないようだが、「紹介・転院の連携がしにくい」ことについては4割弱の施設が影響を受けていると回答するなど、大きく影響を受けているようである。

・自由記述で困ったことを聞いたところ、症状がある患者の受診控え、がん検診受診の減少、病院の面会制限で入院しつづける、入院中の患者が退院を希望して急遽連携して在宅の体制を整えることになったり、医学的に症状が重い患者の退院が増えることで在宅サービス事業者に負担がかかってなかなか難しかったり、家族が面会できない間に悪化した患者の状態を受容できないケースがあった等の声が寄せられた。

・要望については、患者退院時に対面での連携が難しいので、webを使用しての連携（情報共有）をさらに進めていく必要があるのではないかという意見が最も多く寄せられた。

・実際のところがん検診がどの程度減少したのか、検診で引っかかった場合の精密検査受診が減っているのか、県は何か情報をお持ちでないか質問があった。

→岡山県：現時点で当部署は把握していない。

→受診抑制について、当院が岡山県の委託を受けて行っているがん精密検診結果収集管理事業では、患者が受診した医療機関から情報が送られてきている。各市町村は精密検診案内を送付した件数を把握しているはずなので、送付件数に対して当院に戻ってきた件数を前年度と比較すれば、どの程度受診抑制があったかが分かると思う。

→これで精検受診率が落ちているようなら対策を講じないといけないので、結果がわかればぜひ教えていただきたい。

→岡山市：受診率としてはまだ出てないが、緊急事態宣言時の集団健診が延期となり、全体のがん検診としてはやや受診が減少している。大幅な減少は今のところ見られていない。岡山市の状況としては、R2.12末時点暫定値で、がん検診受診者数1~2割減の状況である。

○各施設に事前照会したオンライン会議の開催可能状況について報告があった。本部会では、過去数年に渡って各拠点病院の医療従事者向けに、地域でいかに研修会を開催するかについてグループワークを開催してきた。コロナ禍ではオンラインで研修を進めていかななくてはならないため、自施設で開催できるかどうかを調査した結果である。ほとんどの施設は自力で開催可能だが、ホストとしての開催が難しい施設は、岡大含めて開催できる他施設でサポートできると思うので活用していただきたい。

⑥ がん登録部会

○3月9日にweb開催された第14回がん登録部会で、メーリングリストを作ってはどうかと提案があり、各施設の診療情報管理士と岡山県医療推進課が参加し、日常的な疑問点の質問等にも活用することが決定した。

・①岡山県がん登録情報の利用と申請方法について、②岡山県による生存確認調査の実施について（岡山市分）報告があった。国立がん研究センターが行っている予後情報支援事業が今年で5年予後が終了すること、全国がんから情報が取れるので今後どうするかが議題に上がったが、まだ決定はしていない。

・毎年発行している岡山県院内がん登録報告書の内容について提案があった。

・令和2年11月14日に開催された第18回院内がん登録実務者web研修会のアンケート結果について報告があった。

⑦ がん薬剤師部会

○2月5日にweb開催された令和2年度第2回がん薬剤師専門部会について報告があった。

・昨年度対面で行う予定であった第3回研修会（金川地域）について、当分対面では行えないと思われるためwebでの開催を検討した。しかし、金川地域担当の岡山医療センターより、アプリケーションの関係、及び3名いた委員が全員転勤になると報告があったため、5～6月ごろに部会を開催して研修会開催について計画を立て直すこととなった。

⑧ 歯科部会

- 歯科の研修機会について、がんプロ養成コース、岡山市立市民病院、岡山大学病院で開催された医科歯科連携に関する研修会について協議会を通して情報提供を行った。
- ・2021年度は歯科医師ならびに医療関係者を対象とした研修会開催を計画中である。

⑨ がんゲノム医療部会

○2018年からがんゲノム医療中核拠点病院の制度が整備され、岡山県では岡山大学病院が中核拠点病院に選定されており、県内で連携病院は4施設が選定されている。現在、がん遺伝子パネル検査はがんの標準治療終了後、又は終了予定の方が対象となっている。この医療は多職種連携が必要不可欠であり、特に緩和医療との連携が重要になってくる。1～2割は遺伝性の腫瘍であるため、未発症者の予防や予防予測も対象とされている。がん遺伝子パネル検査で治療、遺伝医療で予防し、確実にがん死低減につながると考えられる。そこで次の3点が重要であると考えられる。

- ① 情報共有の機会・人材育成の機会について：ゲノム医療、遺伝医療は究極の地域医療と考えており、医療者への情報提供、がん遺伝子パネル検査については標準治療終了後に早めに検査すること、遺伝医療では自分のリスクを知って本人のみならず血縁者全体のがん予防につなげることが重要と考える。
- ② 部会員の選定について：医師だけでなく、看護師、薬剤師、その他の職種がバランス良く入ることが良いのではないかと思う。昨年度まではがんゲノム医療連携病院までが人材育成の対象とされていたが、今年度からがん診療連携拠点病院等も含まれると厚生労働省から公益社団法人 日本臨床腫瘍学会（JSMO）に連絡が来ている。よって、今後は県全体で考えていく必要がある。ゲノムのエキスパートだけでなく、これから勉強したい方も歓迎する。事務局経由で委員を募らせていただきたい。
- ③ 調査依頼：遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）症候群の厚生労働省の保険診療に係る施設連携について、当院に様々な質問が来ている。最も多く寄せられているのが、ゲノム情報の診療録の管理についてであるため、各施設に調査依頼をさせていただきたい。一個人としては、ゲノム情報は共有することでメリットが生まれると思っているので、晴れやかネット等も利用して県全体で情報共有し、患者や血縁者に活用していくのが望ましいと考えている。ただ、各病院の方針が前提にあるため、その点も含めて事務局経由で調査依頼させていただきたい。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院
特になし

(5) その他

○2月6日にweb開催された都道府県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルフォーラムについて報告があった。

・本協議会では、都道府県レベルでのPDCAについて県内での共通の目標を設定して取り組んでいくことが求められている。全国のアンケートによると、会議体を設置している施設は約48.9%あるものの、活動を開始していない施設もある。コロナ禍でも研修会の開催や総合評価は行わなければならない、オンラインを活用することも推奨されている。

・患者体験調査について：がん医療の満足度は8割弱である一方、セカンドオピニオン、妊孕性、就労についての満足度は低い。コミュニケーションの不足も問題で、年代としてはAYA世代が相談しにくい状況であることが今後の課題である。

・今後の拠点病院の指定要件の見直しに向けて：がん医療の今後の課題として、医療施設間の情報共有の不足、患者に提供する情報の過不足、妊孕性の問題、専門外の時に適切に紹介してもらえるのか等が上げられていた。相談支援センターについて、治療時にその存在を知らなかったという意見も多数見られた。また、相談支援は目に見えないので、病院としての位置付けが低いというのは問題ではないかという意見も上がっていた。

6 協議事項

○作業部会の再編について提案があった。県全体で取り組む課題として、妊孕性、AYA世代、希少がんが上げられており、部会として作っていく必要があると思うがいかがか。意見をうかがいたい。

→反対意見がなかったため、全施設参加ではなく、手上げ方式で進めていくことで承認となった。尚、化学療法部会も協議会ですでに承認されているが、活動できていないので今年度の課題である。

7 その他

○岡山県医師会より、コロナワクチン接種で差し迫った状況であるが、がん治療も継続していくことが必要なので、引き続き連携・協力をお願いしたいと意見があった。

○岡山県歯科医師会より、今年度は病院内にある歯科と、歯科がない病院との連携を進めていきたいと意見があった。

8 次回開催日

次回は7～8月頃、PDCA部会を開催予定。親会議は12月に開催予定。

いずれも開催日が近くなったら日程調整を行う。

(対面の場合は岡山大学病院 大会議室、コロナ収束状況ではweb開催とする)